

第3部 令和7年度以降に向けて

- 1 実行プログラムの検証
- 2 実行プログラム後の方向性

1 実行プログラムの検証

- 本プログラムの目的である「都立高校における様々な課題の解決」や「都立高校の魅力向上」の達成度合いを計るため、3つの施策の方向性それぞれにおいて以下の指標を定め、継続的に成果を検証していきます。
- 結果については、本プログラムにおける各施策の効果検証等に活用するとともに、令和7年度以降の取組にも反映させることとします。

【成果指標一覧】

	指標名	実績	目標	
		R3年度	R6年度	
I 自ら未来を切り拓く力の育成 <small>ひら</small>	教育ダッシュボードを活用している学校数	-	100校	
	学校の学習用ネットワーク環境について「不満」「やや不満」と感じている割合	教員:41.2% 生徒:64.2%	30.0%以下	
	高校卒業時における英語力がCEFR A2(英検準2級程度)相当以上の生徒の割合	50.0%	60.0%	
	国際交流の実施校数	-	全校実施	
II 生徒目線に立った支援の充実	不登校生徒のうち、中途退学に至る生徒の割合(過去三年間平均)	(R元～R3年度) 全日制:22.9% 定時制:18.1%	(R4～R6年度) 全日制:20.0% 定時制:15.0%	
III 質の高い教育を実現するための環境整備	<small>てい</small> 現在、 <small>い</small> どの、 <small>る</small> か、 <small>ど</small> の、 <small>か</small> の、 <small>の</small> 、 <small>高</small> 校、 <small>校</small> 生、 <small>生</small> 活、 <small>活</small> に、 <small>に</small> 感、 <small>じ</small> つ	自分のやりたい勉強ができていると思う生徒の割合(全校)	65.8%	R3年度数値より向上
		デジタル技術を活用した学習ができていると思う生徒の割合(全校)	53.2%	R3年度数値より向上
		就職に役立つ知識や技術を身に付けることができていると思う生徒の割合(専門高校)	79.6%	R3年度数値より向上
	現在通学している学校の先生の授業が上手だと思う生徒の割合(全校)	63.5%	R3年度数値より向上	
	1か月当たりの時間外在校等時間が45時間以下である副校長の割合	43.7%	100%	
	1か月当たりの時間外在校等時間が45時間以下である教諭等の割合	67.0%	100%	

2 実行プログラム後の方向性



- 「令和4年度教育人口等推計報告書」によると、都内公立中学校3年生生徒数は、令和12年度まではおおむね横ばい・微増傾向で推移しますが、令和13年度以降は大きく減少に転じる見込みとなっています。
- 本プログラムを着実に実施し必要に応じてブラッシュアップしていくとともに、令和7年度以降の都立高校の在り方等については、生徒数の推移や来年度策定予定の「東京都教育ビジョン(第5次)」との整合性を図りつつ検討していきます。

